

長中だより



第17号（平成31年1月10日発行）発行者 校長 小貴 崇明

【1月の生活目標】

- 新年の抱負を立て、その実現のために意欲的に生活しよう。
- ・あいさつの徹底
- ・交通安全の徹底

○「平成最後の3学期」が始まりました！



「平成」という時代も、あと数ヶ月で終わりを迎えようとしています。平成最後の3学期の始業式を1月8日（火）に実施いたしました。3学期は1・2年生が51日間、3年生が45日間の、まさに「まとめの学期」です。それぞれの長中生が、成長した自分を感じることができるよう、充実した3学期を送ってほしいと思います。もちろん、特に3年生には、自分の希望進路実現に向け、最大限の努力を期待したいと思います。

また、校長式辞では、下欄でも紹介する長沼中の先輩・相澤晃選手の活躍やNHK大河ドラマ「いだてん」の中に出てくる昭和34年頃の東京・日本橋の再現特撮シーンが、なんと長沼の室内ゲートボール場で撮影された話なども紹介いたしました。

ところで、始業式では各学年代表（1年 會田ひよりさん、2年 小林風喜君、3年 藤田健人君）が3学期の目標を発表しました。どの発表も、今の自分自身を見つめ、置かれた状況をふまえた本音をまとめてあり、たいへん立派な発表でした。



○長沼中の先輩・相澤晃選手（東洋大3年）が大活躍！



新年1月2日・3日に開催された「箱根駅伝」において、本校卒業生の相澤晃選手（東洋大3年）が、1日目の往路・4区で会心の走りを見せ、今までの記録を1分以上縮める区間新記録を樹立し、東洋大学の往路優勝に大きく貢献しました。テレビや新聞各紙でも大きく取り上げられ、長沼地域の、そして長沼中生にとっての新年最高のニュースとなりました。

ところで、相澤選手の長沼中卒業時の文集を見てみました。「一番の思い出」というタイトルで、中3の時に陸上競技3000Mにおいて全国大会に出場できたことについて語られています。作文の最後のまとめには、「この全国大会で僕は成長した。だから、この思い出は一生の宝物だ。」と熱く語った相澤選手。一生の宝物に出会えた幸せ、そしてその後の人生でもさらなる高みを目指して努力を続ける相澤選手のストーリーは、すべての長沼中生に勇気をあたえてくれます。相澤先輩、あなたは長沼中、そして長沼地域住民の「誇り」です！！

○新春席書大会で3年・松本茉莉亜さんが教育長賞受賞！

新年1月5日（土）に須賀川アリーナで行われた第58回新春書道展「席書大会」に、本校からは3年の松本茉莉亜さんが参加しました。手がかじかむほど寒いアリーナの中で、真剣にかつ自信を持って筆を運ばせ、松本さんは立派な作品を完成させました。審査の結果、見事に「須賀川市教育委員会教育長賞」を受賞いたしました。表彰式は、1月18日（金）新しい須賀川の文化施設「tette」（テッテ：須賀川市中町）にて行われます。また、同じ tette で20日（日）まで特別賞受賞作品が展示されますので、お時間のある方はどうぞご覧下さい。



○「奇跡のあじさい」熊本から京都へ



2016年4月の熊本地震をきっかけに交流を続ける熊本県宇土市立住吉中学校には、長沼中から「奇跡のあじさい」を贈ったことは、何度かお伝えしてきたところですが、今度は住吉中で育てた「奇跡のあじさい」の苗を、京都市の小中一貫校・大原学院に贈るという記事が、平成30年12月15日付の熊本日日新聞に紹介されました。

記事によると、熊本地震後に大原学院では募金を呼びかけ、住吉中へ電子ピアノを寄贈して下さったそうで、今回修学旅行で京都を訪れた住吉中の生徒会役員が、「奇跡のあじさい」の苗を持参して届けたということです。

遠く九州・熊本県で大切に育てていただいた「奇跡のあじさい」の絆が、さらに京都へと伝わっていったということに本当に感謝、そして感動しています。この「奇跡のあじさい」による絆を、私たちはこれからも大切にしていきたいと思ひます

※1月3日（木）の夕刻6時過ぎに、熊本県において震度6弱を示す大きな地震がありました。住吉中のある宇土市の被害状況については、特に報道されていませんが、地震で大きな被害を受けるという共通の経験をしている私たちにとって、本当に心配な出来事でした。被害がなかったならいいのですが・・・



★大切にしたい言葉(37) 「“はたらく”とは、はた(まわり)を楽にすることだ」

働き過ぎにより将来のある若者が自ら命を落とす悲劇や、働かせておきながら十分に給料を払わないブラック企業、教員の働き方改革など、「労働」とか「働く」ことに関するマイナスイメージが広がっている感じがします。でも、本来「働く」とは喜びや充実感があるものであり、そうでなければ人間は働きたくなくなってしまいます。大変なことや大変な時もあるけれど、働くことによって自分や自分の家族が生きていく糧を得ることはもちろん、自分の仲間や社会を楽にするという意味があることをかみしめて、自分で選んだ仕事をできる範囲でしっかりと頑張っていきましょう。

